ごぜ唄が聞こえる 2016

「葛の葉子別れ」 藤原重夫 画　平井治男 寄贈

越後ごぜ唄
萱森直子

力強く歌い続ける声がありました。凛と響く潔い唄声と三味線の音は、聴く人の心に沁み入り楽しませてきました。
小林ハル直伝の技を引き継いだ萱森直子さんによる日本人の心の奥底に響く、ごぜ唄の調べをお楽しみください。

【演目】葛の葉子別れ

2/26（金）
14：00～
19：00～

2/27（土）
14：00～

※全3回公演
開場は開演の30分前
2,500円／予約制
当日精算・全席自由

【出　　演】萱森直子（越後ごぜ唄）
【上演時間】約90分

QRコードで簡単予約
http://broaderhouse.info/gozeuta.html

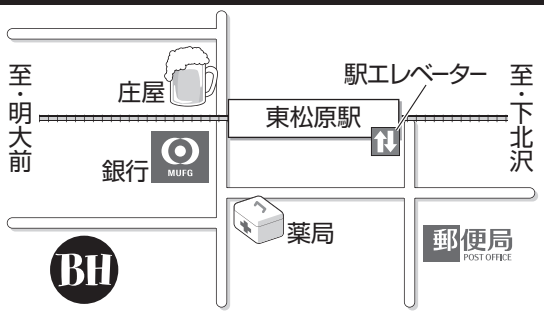
お電話での予約・お問い合わせは **080-5055-3251**
※非通知不可
※留守電になりましたら、改めてこちらからご連絡いたしますので、お名前とご連絡先をお入れください。
■視覚障害者割引 及び 付添い割引あり
詳しくはお問い合わせください。

【企画・制作】荒木明子
【舞台美術・監督】辰巳次郎
【宣伝美術】オフィスSKD株式会社
【協　　力】新潟館ネスパス　東京新潟県人会　Ks Company

ブローダーハウス　〒156-0043　世田谷区松原5-27-10　TEL.03-3324-0919　FAX.03-3324-0916

Broader House ブローダーハウス
http://broaderhouse.info

ブローダーハウスはお陰さまで10周年を迎えました



京王井の頭線『東松原』駅改札を出て右、徒歩1分
※急行は止まりません

瞽女さんとは、

三味線を携え農村・山村を巡る盲目の女性旅芸人のことです。

一年のほとんどが旅で明け暮れ、目的の村に着くと「ごぜ宿」という泊まりつけの家に荷を下ろしては、村の家々の戸口で唄い、来たことを知らせ（門づけ唄）、夜になれば、村人が集まりごぜの本領である祭文松坂（段もん）や口説き、民謡など（ごぜ唄）を聞かせ、喜捨や米や祝儀を収入としていました。

江戸時代には北海道を除く日本全国で姿を見ることができましたが、明治時代に入りラジオやテレビの普及によって次第に衰退していきました。それでも特に新潟県では昭和の時代まで栄え、昭和５２年（１９７７年）に瞽女が最後の活動を終えるまで続きました。瞽女唄は日本の娯楽の一端を担っていた伝統芸能の一つです。

最後の瞽女さんと言われ、記録作成等の措置を講ずべき無形文化財保持者（通称人間国宝）であった小林ハルさんも２００５年、１０５歳で亡くなり、今では数人の方がごぜ唄継承に努力されています。

華法寺の境内でごぜ唄を披露しているハルさん
【写真提供：二瓶文和氏】

＊小林ハル

1900年（明33）		新潟県三条市で出生 生後100日で失明
1905年	5才	瞽女の親方に弟子入り
1909年	9才	初の旅回り
1973年		福祉施設に入所するまでの13年間を華法寺のある阿賀野市出湯にて二瓶文和氏の恩顧を受け過ごした。
1985年		特別養護盲老人ホーム「胎内やすらぎの家」で小林ハル、萱森直子会遇

萱森直子プロフィール

記録作成などの措置を講ずべき無形文化財保持者の長岡瞽女小林ハル氏に師事。
小林ハルの伝えた３種類の節回しで祭文松坂をうたいわけることのできる唯一の唄い手。
師匠小林ハルのすすめにより、高田瞽女・杉本シズ氏より高田系瞽女唄も習得。
長岡・高田両系統の瞽女唄を直接伝授された、現代において唯一貴重な伝承者である。
公演では『瞽女唄は、かつての瞽女と聞き手たちの息遣いとともに伝えられなければならない』を信念として、現代の感覚で手を加えずにありのままのごぜうたをよみがえらせることを心がけている。
教職経験をいかし、新潟市内の保育園で園児と唄う活動にも取り組むなど、瞽女唄をめぐる環境づくりや後進の育成にもつとめている。
近年、新潟近県はもとより、山梨県清里、大阪府和泉市、京都清水寺、伊勢市、金沢市等、演奏会も全国的に広がっている。

ブローダーハウスと萱森直子瞽女唄公演の歩み

2007年	12月	ブローダーハウス企画初の東京公演 ごぜ唄が聞こえる 「赤垣源蔵・巡礼おつる」
2009年	2月	ブローダーハウス3周年記念　3週間連続公演 ごぜ唄が聞こえる2009 「葛の葉子別れ」
2010年	2月	ごぜ唄が聞こえる2010 「石堂丸」
2011年	2月	ごぜ唄が聞こえる2011 「八百屋お七」
2012年	2月	ごぜ唄が聞こえる2012 「山椒大夫・景清」
2013年	2月	ごぜ唄が聞こえる2013 「巡礼おつる」
2014年	2月	ごぜ唄が聞こえる2014 「佐倉惣五郎」
2015年	2月	ごぜ唄が聞こえる2015 「赤垣源蔵」

萱森直子による　指導・協力作品

2008年	NHK「新日本紀行ふたたび」萱森直子　出演
2009年	NHKオーディオドラマ「女歌　夢の道行」 (石川さゆり主演)の制作に参加。
2011年	石川さゆり主演舞台「夢売り瞽女」（大阪・名古屋） ごぜ唄指導・三味線協力
2012年	東京ノーブィ・レパートリーシアター公演 「越後瞽女唄冬の旅」ごぜ唄指導

毎日新聞、新潟日報など、新聞、雑誌にもその活動や文章がたびたび紹介され、萱森自身も「ブローダーハウスはごぜ唄にとてもふさわしい場として楽しみにしている会場である」と述べている。

今年も小さな小屋から瞽女さんの門づけ唄が聞こえてきます。
瞽女さんの声は春を告げる戸をたたく音。2月は頬を撫でる風も冷たく、まだまだ雪の心配もあって、春というには尚早ではあるけれど、だからこそ瞽女さんを感じ、越後ごぜ唄を聴くには絶好の季節なのではないでしょうか。
ブローダーハウスは今年で10周年を迎えました。2005年に1階「静の空間」を、2006年に2階「動の空間」をオープンしました。
初めて萱森さんを東京にお呼びしたのが2007年、12月。今年でこの公演も9回目を迎えました。ブローダーハウス3周年記念の時には「葛の葉子別れ」をテーマに3週間連続公演を企画しました。第一段として小林ハルさんをお芝居でご紹介し、第二段は「葛の葉」を朗読劇と人形躁演でわりやすく解説し、いよいよ3週目に萱森さんの 越後ごぜ唄を。ゲストには高田系の月岡祐紀子さんをお招きし、長岡と高田のごぜ唄の違いを聴き比べていただきました。
「2月にブローダーハウスへ行けば瞽女唄が聴ける」ということも徐々に浸透しつつあると思います。今後ともこの民衆が培ってきた日本の誇るべき伝統芸能の継承に、少しでも多くの方に広め、知っていただける場としてお力添えが出来れば嬉しく思います。

ブローダーハウス　代表　荒木明子

3周年記念公演ではじめて「葛の葉子別れ」の朗読劇を観劇させていただきました。その時にはごぜ唄も小林ハルさんも萱森直子さんのことも全く知らない状況だったのですが、純粋に朗読劇そのものが面白く期待以上でした。生音の深み、感情が伝わる声、思わず引き込まれる空気感など、理屈抜きで舞台の魅力が圧倒的に感じられました。
それをきっかけに、ごぜ唄や小林ハルさん、萱森直子さんのことにも興味を覚えました。ブローダーハウスでの公演が毎年続いているというのは、自分と同じような気持ちになった方が多いという証拠ですね。ぜひまた観劇したいと思っています。

お客様の声より　東京都　S.K